

特定非営利活動法人 野生動物救護の会 会報



Vol.38

# RUNNER



今回は通常の内容ではなく、高病原性鳥インフルエンザが傷病鳥獣に与えた影響についての特別号です。

高病原性鳥インフルエンザが傷病鳥獣に与えた影響

## ボランティア活動中止の裏側で

～時系列にそって「何が」起きたのか～

■ 9/26 18:49 ■ 【野生動物救護ボランティアの皆様 ①】

日頃より当所の野生動物救護業務にご理解、ご協力いただきありがとうございます。

急遽申し訳ありませんが諸般の事情により明日以降、ボランティア活動を中止いたします。

再開しましたら改めてご連絡いたします。

傷病チーム

突然、ボランティア宛にボランティア活動中止のメールが配信されました。意味がわからないメール配信が流れた後に神奈川県自然環境保全センター（以下保全センター）自然保護課長より電話があり、詳細を知ることになった。

9月25日PMに受け付けた衰弱した「ハヤブサ」が翌日の朝、死亡。

死ぬ前の様子がおかしかったので、念のために鳥インフルの簡易検査を試みるが、その結果が陽性となったためボランティア活動の中止となりました。（①のメール発信）

陽性という結果が出たため、確定検査のために国が指定している遺伝子検査に出す。

9月29日に確定検査の結果も陽性となる。

当日の午前中に自然保護課長から検査の状況・今後想定される対応などについての電話があり詳しい話を聞く。

その後、関係各者と救護の会あてに神奈川県自然環境保全課野生生物グループからメール②が届きました。

【傷病鳥獣保護連絡協議会構成員等②】 ご担当者様

日頃大変お世話になっております。

神奈川県自然環境保全課野生生物グループです。

標記のことについて、9月26日、伊勢原市内で回収された野鳥（ハヤブサ1羽）より、高病原性鳥インフルエンザを疑う事例の発生があり、国立環境研究所において遺伝子検査を実施した結果、高病原性鳥インフルエンザ（H5N1亜型）が検出されました（詳細は次のURL参照）。

○県記者発表資料

・第1報 <https://www.pref.kanagawa.jp/docs/t4i/prs/r7591352.html>

・第2報 <https://www.pref.kanagawa.jp/docs/t4i/prs/r5528781.html>

・第3報 <https://www.pref.kanagawa.jp/docs/t4i/prs/r8118884.html>

○環境省記者発表資料

・簡易検査陽性 [https://www.env.go.jp/press/111118\\_00006.html](https://www.env.go.jp/press/111118_00006.html)

・確定検査陽性 [https://www.env.go.jp/press/111118\\_00007.html](https://www.env.go.jp/press/111118_00007.html)

県は、直ちに野鳥の監視強化や感染拡大防止措置等を行っているところですが、県民等から次のような情報が寄せられた場合は、県で検査を行う場合がありますので、以下 URL 下部記載の連絡先までお知らせください。

- ・同じ場所でたくさんの鳥が外傷なく死亡している
- ・猛禽類(ワシ・タカ・フクロウ等)や水鳥(カモ・ハクチョウ・カイツブリ等)が外傷なく死亡している
- ・その他、周辺の状況から異常と考えられる場合

\*特に、今回のハヤブサの回収地点である伊勢原市周辺(平塚市、藤沢市、茅ヶ崎市、秦野市、厚木市、伊勢原市、海老名市、綾瀬市、寒川町、大磯町、二宮町、中井町、清川村)

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/t4i/ent/f986/p856705.html>

また、本件を受け、県自然環境保全センターでは当面の間、立ち入り及び傷病鳥獣の受入を停止しており、また、横浜市立動物園も当面の間傷病鳥類の受入を停止することですので、併せてお知らせします。

そして、9月30日午前、神奈川県自然環境保全センター自然保護課長からメール③が届きました。

■ 9/30 AM ■ 【野生動物救護ボランティアの皆様③】

神奈川県自然環境保全センター自然保護課長です。

日頃より当所の野生動物救護業務にご理解、ご協力いただきありがとうございます。

新聞報道等ですでにご存知の方もいらっしゃると思いますが、9月25日に当センターに持ち込まれたハヤブサから高病原性鳥インフルエンザ(H5N1 高病原性)が検出されました(検査を行った環境省より9月29日午前に確定連絡)。

これを受け、高病原性鳥インフルエンザの感染拡大のリスクを最大限回避するため、神奈川県としての判断により、当センターで飼養中のすべての鳥獣を殺処分することが決定され、9月29日午後実施されました。

大変ショッキングな事態であり、急遽ご連絡させていただきましたが、皆様に事前に連絡が出来ず大変申し訳ありませんでした。

今シーズン、全国で初の高病原性鳥インフルエンザの発生であり、それが当センターに持ち込まれた傷病鳥であったという、極めて想定外の事態に、担当職員も大変なショックを受けております。

(ご存知の通り、例年、鳥インフルエンザが国内で確認された場合、当センターで受け付けた鳥類は、1週間の隔離措置を行っております。) 大変悲しく悔しい事態となりましたが、現在、防疫活動を継続中であり、自然環境保全センターは閉園、今後の救護活動の再開時期についても、未定の状態です。これに伴い、当面の間、ボランティア活動も休止となっています。(防疫作業のため、お問い合わせへの対応も困難な状況です。何卒ご理解・ご協力ください。)

この悲しみを乗り越え、新たな体制を整え、傷病鳥獣救護活動を再開できるよう尽力してまいります。再開の目途が立ちましたら改めてご連絡いたします。

令和4年9月30日

自然環境保全センター 自然保護課長

つづいて

**【傷病鳥獣保護連絡協議会構成員等④）ご担当者様】**

日頃大変お世話になっております。

神奈川県自然環境保全課野生生物グループです。

標記のことについて、県内各施設より受入休止等の連絡がありましたので、一部、既にお知らせしているところではありますが、以下のとおり共有いたします。

○神奈川県自然環境保全センター

9/26～当面の間 鳥類・獣類の受け入れを休止(立ち入りも停止中)

○横浜市立動物園(野毛山動物園、金沢動物園、よこはま動物園(ズーラシア))

9/29～当面の間 鳥類の受け入れを休止(通知文別添)

○川崎市夢見ヶ崎動物公園

9/30～当面の間 鳥類の受け入れを川崎市内に限定

\* 傷病鳥獣関係の受け入れ状況や連絡先に変更があった場合は随時の情報提供をお願いいたします。

最後に、

**【野生動物救護ボランティアの皆様へ⑤】**

野生動物救護ボランティアの皆様

朝夕冷え込む季節になりましたが いかがお過ごしでしょうか。

しばらくご連絡が出来ず、ご心配をおかけし申し訳ございませんでした。

現在、傷病チームでは防疫体制の強化、見直しをした上での受け入れ再開に向けた準備に励んでおります。

防疫体制強化に伴う新体制に向け、今後のボランティア活動内容や傷病棟への立ち入り方法など今までとは大きな変更点が生じることになると思います。

我々職員もはじめてのことで慣れるまでご不便をおかけするかもしれませんが、ボランティアの皆様にはご理解・ご協力をお願い申し上げます。

また詳しい事が決まりましたら、ご連絡いたします。 年末に向けてお忙しい時期かと存じますが、お身体を大切になさってください。

傷病チーム一同

という流れがあり現在に至っています。

神奈川県内初の鳥インフル、そして初の野生動物傷病救護施設での出来事。

保全センター設立後、前代未聞の野生動物・傷病鳥獣、全殺処分という悲劇だけでは語り尽くせないことがおきました。傷ついた野生動物たちを少しでも救いたい、野生に帰したいという熱い志でボランティア活動されていた皆様にとっても非常に心が痛い出来事になってしまいました。

そして、そのやり場の無い怒りを持って余している方、納得なんて絶対出来ない方、頭では理解できていても、心がついていかない方も沢山いらっしゃると思います。

誰が悪いわけでもなく、きっかけとなったハヤブサにも罪はない、そんな中、野生動物たちを日々、懸命に治療し世話をしていた保全センターの職員さんたちにとっては、想像するだけでも恐ろしい、ものすごく辛い作業だった事と思います。

各地で他の家畜たちにも、いろいろな病気が発生してニュースとして流れています。

今まで、なんとなく他人事だったのに(皆さん、ごめんなさい)こんな身近な所で起きるなんて驚くばかりです。

10月23日から自然観察園は立ち入る事はできる様になりましたが、鳥獣保護棟・傷病鳥獣治療飼育舎等は未だに立ち入り禁止となっています。

しかし、まだ再開のめどは見え、今後の課題は多い中で、傷病舎チームの職員さんたちは、再開に向けての作業に明け暮れています。

当たり前ですが、二度とこの様な事が起きないように、確実な対策を考えながら。

そして今、私たちボランティアに出来ることは？

この悲しみ、辛さを乗り越え、野生動物救護活動の重要性を、もう一度考えて下さい。活動は、救護動物の世話だけではありません。

皆さんに、人間と野生動物との共存について考え、知ってもらうための普及啓発活動も大事なことだと思います。

救護された動物達を救うのも大事、でも、その前に傷つけないで済むようにすることも大事。

この世界で自由に暮らしていた野生動物たちは、人間社会との軋轢による事故や病気のために傷病鳥獣となったり、人間の勝手な思惑のために動物園での展示動物や愛玩動物になったりしたことにより、地球に生命が誕生した35億年前から続く野生の掟から切り離されて、人間本位の法律に縛られてしまいました。和歌山県の動物園でもセンターと同じ悲しい出来事が繰り返されています。私たちボランティア一人一人が野生動物たちとの正しいソーシャルディスタンスについて再考して、彼らとの正しい距離を保つことの重要性を多くの人たちに伝えてほしいと思います。

イベントなどへの参加、ネット、会報誌による情報発信など、やれることは沢山あります。どうぞ皆様のお力をお貸しください。

普及啓発活動の場への参加、活動場所の情報など、ご協力をお願いいたします。

ここで立ち止まらず、過去の痛手を教訓として、今こそ力を合わせ、先へ進んで行きましょう！

この件に関してはいろいろな立場からご意見があると思います。ぜひ救護の会にご意見をお寄せください。

暗い話ばかりですが、次に「運」良くこの災いを避けられたチョウゲンボウの訓練と放野についてです。

目を通して頂ければ幸いです。

理事長 渡辺 優子

## ◇◇◇チョウゲンボウの飛行訓練(M プロジェクト)◇◇◇



写真:1 訓練前

「運」が良かったのか、悪かったのか!? チョウゲンボウの放野に向けての飛行訓練の記録です。チョウゲンボウの『ちよつち』が、救護されて保全センターに持ち込まれたのは、2021年6月12日のこと。巢立ったばかりで、カラスに襲われていたそうです。骨折等の外傷はなかったものの重度削瘦。保全センターでは、様子を見ながら少しでも飛べる様にと広いケージに移してみるが、ほとんど飛ぶことなく歩くだけだったらしい。そんな『ちよつち』が我が家にリハビリのために短期飼養として来たのが、9月9日 その時の体重は171.9g 翌日の10日からは、食べさせるための試行錯誤が始まりました。飼育場所が変わった為か、体重も少々あるためか、エサには見向きもしない。(こんな子初めて…)

マウス～ダメ・ヒヨコ～ダメ・少しでも口にするのは、鶏頭をひと口大に細かく切ったものだけ。それでも、つつきまわすだけで、あまり口にしていけない様子。

9月14日には、体重153g 朝と夕方、一日に2度にわけ餌をあげ、手で直接あげると少しは食べてくれるが、餌を置いておいても干からびるだけ。こんなに生きる気力のない子は初めての経験。一度でも飢えたことがあると食べることにに関しては食欲なはずなのだが。

10月8日までこんなことを繰り返していて、9日夕方、突然完食。

この後は、食べたり食べなかったり、記録ノートには細かく食べた量を記載。

時々、ヒヨコを混ぜてみるが、はねのける。

12月7日マウスをあげても半分しか食べてくれない。この頃は、少しでも食べさせるために本当に苦労している。

食べたり食べなかったりの12月、それでも少しはやる気になったのか、羽ばたきの練習など始めて、鳴きながらバタバタする様子が見られる様に。



写真:2 傷んだ羽

年が明け2022年4月12日気温が落ちつきそうなので、そろそろ訓練を始めようか…体重132g 足皮装着

最初の試練が、手の上(拳の上)に抵抗なく乗ること。手から餌を食べること。

本来なら、少しずつ体重を落として(餌を減らし)、餌で人間に対する恐怖心を克服させるのだが、どーも気温が一定にならない。体重を減らして急激な冷え込みがあると、そのことで、エネルギーを使ってしまい死に至ることも。もともとの



写真:3 換羽中

体重も軽い元気な子ではなかったのも、思い切った減量ができず、やる気も食欲もいまいちの『ちよつち』との根気くらべ。訓練は順調ではなかったものの、4月末ごろにはヒヨコ1羽を完食するぐらいに。体重は平均160g～これじゃ飛ばないねえ。

5月に入ってやっと気温が一定に、さあ本格的に訓練をはじめ様とした5月4日…

『ちよつち』の鳥小屋に次列風切羽根が1枚落ちていた !! 換羽の始まりでした。

(換羽とは、猛禽類の場合、年に一度全身の羽根が抜け替わること)

ちょっと早いじゃないか。

減量中だと、いい羽根が生えてこなくなるので残念ながら訓練は中止。後は換羽が終わるまで待つのみ。

換羽最後の羽根は、8月17日57枚目次列風切羽根回収（初列風切・次列風切・尾羽根など集める～時間があるときにでも換羽表を作ります）

最後に回収した次列風切羽根が完全に成長したのを確認し少し日程に余裕も持たせて



写真:4 抜けた羽根

9月12日 体重(以下、体重省略)159g

さあ～訓練再開 !!

基本的には、朝と夕方、ひと口大の餌を見せて、手の上に

乗る様に促すのだが、春にも経験したが、なかなか手ごわいぞ。まずは小屋の中でフリーな状態で。

9/13	151g	8:30 ×	5:00 ×
9/14	142g	8:00 ×	4:00 ×
9/15	135g	8:00 ×	4:30 △ 手の上に乗る
9/16	132g	9:20 ×	4:10 ○ 5口 ~手から食べる
9/17	132g		3:30 ×
9/18	134g	8:30 ×	4:30 ○ 5口
9/19	135g	9:30 ○ 1メートルを7回	足にヒモをつける この日まで小屋で訓練

ここから外で飛ばす 止まり台に『ちよっち』を乗せて手に餌を見せて来る様にうながす

足に足皮、足皮にリード(犬の散歩ヒモ)、リードの先には50メートルぐらいまでの長いヒモ

9/20	140g	10:20 ×	4:30 × まわりを見てばかり
9/21	133g	8:10 ×	4:20 ×
9/22	130g	8:10 ○ 50センチを3回	3:30 ○ 2メートルまで8回 いい子
9/23	132g	10:00 ○ 5メートルまで5回	とてもいい子
9/24	133g		4:10 △ 7メートルまで6回 暴走あり……※1
9/25	131g	10:00 ○ 5メートルまで6回	バツタを食べる
9/26	128g	10:00 ○ 10メートルまで7回	自分で戻る……※2
9/27	128g	9:00 ○ 20メートルまで6回	6回目大暴走
9/28	124g	9:00 ◎ 25メートルまで9回	いい子～早かった
9/29	128g	8:00 ○ 30メートルまで9回	自分で戻る 6回目の戻り大暴走

※1 暴走とは～とんでもない所に飛んでしまうこと

※2 自分で戻る～止まり台に自分から飛んで戻ってくれる

と、ここまで順調に飛行訓練を行い、放野も近い(一週間以内か)と考えていました。

ところが、9月29日午前、高病原性鳥インフルエンザの発生に伴い、野鳥監視重点区域が設定(許可を得て飼養中の野生動物への移動制限)され、当面放野は解除されるまで保留という事になってしまいました。

『ちょっち』のことだけを単純に考えれば、チョウゲンボウの獲物でもあるバツタ等(他の獲物として、ネズミ・小鳥など)の昆虫がいる季節に早く放した方が厳しい世界では生きやすいはず。野鳥監視重点区域が解除されるまで待つしかありませんが、迷いました～このまま訓練を続けるか、一旦中止してから再度訓練をしないか、迷いながらも

9/30	127g	10:00 ◎	30メートルまで	10回	戻りも早い	動画撮影
10/1	134g	10:00 ×	5メートルまで	3回	風が強く煽られる、やる気もない	
10/2	129g	9:00 ×	30メートルまで	4回	やる気がない	
〃		4:00 ○	30メートルまで	10回	早かった	
10/3	130g	2:40 △	30メートルまで	8回	やる気なし	
10/4	129g	2:30 △	30メートルまで	6回	風強し	

訓練の記録を見てもらうとお分かりだと思いますが、『ちょっち』の体重管理と合わせて訓練自体に私の時間もかなり使います。(正直つらいかも…)だんだん、私のやる気がなくなり、『ちょっち』も真面目に飛ばなくなり、とりあえず訓練は中止して、あまり太らない程度に餌をあげる事にしました。

◇10/10 体重 158g      ◇10/15 体重 152g      ◇10/18 体重 146g ……

そろそろ解除も近いかと訓練再開を考えていたこの頃、また急激な冷え込みが…

12月を思わせる寒さだそうで、とてもこんな寒さでは減量は命が危ういと、またまた悩んでいるうちに、10月24日朝、保全センターより、「10月23日 24:00 野鳥監視重点区域解除」の連絡を受けました。もう放野するしかない、25日は天気が悪かったので翌日に。食べさせるだけ食べさせて。10月26日 8:00 たまたま家にあつた足環を少し修正して、



写真:5 放野直前

左足に「E2」を装着。だけど、お間抜けダンナが上下を逆さまにして装着してしまった。(変な呪文の様～)

194g 良く食べたな～すごくいい天気～足皮を切って、止まり台へ、いつでも飛べるぞ!!

が、自由になったのにちっとも気が付かない。仕方がないので手に乗せて促すと、きれいに力強く飛んで、あっという間に見えなくなりました。

その後、そのまま犬の散歩に一時間ほど歩いて帰宅途中、大きなしだれ桜の天辺でへたくそに止まるというか、つかまっている鳥が…『ちょっち』でした。

声をかけたけど、飛び去って行きました。(一年半も世話してあげたのに、でもこれが理想なのかも)

その後のその後 11月6日 PM3:42 庭でけたたましい鳴き声が。モズか～(モズとチョウゲンボウの鳴き声はすごく良く似ている)と、思いつつ外を見ると、目の前の梅の木にチョウゲンボウが止まって、鳴いていました。

ダンナに「ちょーげんがいるー!!」と、つい大声で騒いでしまったら、またまた林の方に飛び去ってしまった。一瞬でしたが、尾羽が少々乱れていた様でしたが、元気そうでした。

もう少し、冷静に対処すれば良かったと反省。放野してから 12 日間。狩りは成功している様子。  
これから厳しい季節になるけど、なんとか生き抜いてほしいものです。  
なんとって「運」が良かったのだから。

こんなチョウゲンボウの特例もあったけど、他にも「長期飼養」で、保全センター出身で今も幸せに過ごしている猛禽類・小鳥やタヌキたちも。我が家にもフクロウのウイズリーくん、エディケーションバードとして、環境教育の場で活躍しています。

今も日本国内で鳥インフルエンザのニュースは流れて来ます。和歌山県アドベンチャーワールドでも、殺処分とか。心が痛みます。保全センターの対策のひとつとして、野生に帰せなくなった傷病鳥獣(骨折・断翼など)は長期飼養で、野生動物救護ボランティアにまかせるのもありかも。

自然のサイクルの中で、「死」は当然あたりまえのことだけど、それは意味のあることであってほしい。ムダな死ほど、悲惨な事はない、それも人間の都合で。

猛禽類のリハビリにしても、時間や手間がかかるわりには何の意味があるのかと、聞かれる事があります。ただの自己満足かも~だけど、猛禽の本来の世界である空に帰してあげたい、飛べる鳥は飛ばしてあげたい。野生動物は自然の中で自由でいてほしい。近年野生動物と人間とのトラブルは、残念なことに山の様に見られます。ここは人間が知恵をしぼり、よりよい距離感、「野生動物と人間との共存」を目指したいものです。

わたなべ ゆうこ

# インフォメーション

## イベント

### ◆エコスクールのお知らせ 第2弾

▽日時:2022年12月16日(金) 3~4時間目 10:40~12:15

☆堀川小学校4年生 38名を対象とした環境教育を行います。

### ◆環境教育 第3弾

▽2023年2月7日(火)3~4時間目 10:40~12:15

☆西小学校3年生112名を対象とした「野生動物との共生」を考える環境教育を行います。

### ◆令和4年度自然発見クラブ

▽2023年2月18日(土)

☆「身近な野鳥のための巣箱づくり」

### ◆第22回さがみ自然フォーラム展示参加

▽2023年2月9日(木)~13日(月)

☆アミュあつぎ 5F あつぎアートギャラリーにて 入場無料

※今後、追加で開催されるイベントなどがありましたら、ホームページ等でお知らせします※

## 衝突調査

### ◆秦野市立図書館衝突調査

▽日時 毎月最終金曜日 →今後の調査日は2023年1月27日、2月24日、3月31日

▽場所 秦野市立図書館

☆野生動物救護の会「バードストライク研究会」では窓ガラスへの野鳥の衝突調査と一緒に  
行ってくれる方を随時募集しています。興味のある方は事務局までご連絡を！

## “救護の会 ブログ” 更新中です！

### ◆野生動物救護の会の活動の様子を楽しくご紹介！

日常のボランティア活動や、猛禽類の訓練風景(M project)、各種イベントのお知らせや  
報告などなど、随時更新しています。救護の会 HP トップページ

「[救護の会ブログ始めました!](#)」のバナーをクリックしてご覧下さい♪

アドレスはコチラ→



\* 詳細は当会ホームページをご覧ください \*

## ☆☆会員へのお誘い☆☆

当会は、設立趣旨にご賛同頂きました皆様方の会費によって運営されております。

[どなたでもご参加いただけます](#)

★一般会員:年会費 2,000円

★学生会員:年会費 1,000円

[私たちの活動を支えて下さる賛助会員も同時に募集しています](#)

★賛助会員:年会費 法人一口 5,000円/個人一口 3,000円 一口以上

【振込先】

ゆうちょ銀行振替口座 : 00270-0-47040

名義 : 特定非営利活動法人 野生動物救護の会

発行月:2022年12月 発行:特定非営利活動法人 野生動物救護の会 電話:0463-75-1830

〒259-1306 神奈川県秦野市戸川1086番地の4 ホームページ:<http://kanagawa-choju.sakura.ne.jp/>

編集者 平沼亜矢子 森紀美子 神崎さつき